

様式第 3 号（第 4 条関係）

会 議 録

1 附属機関等の会議の名称

令和 2 年度第 2 回丹波篠山市あいさつ運動市民委員会

2 開催日時

令和 3 年 3 月 3 日 水曜日 10 時 00 分から 11 時 10 分まで

3 開催場所

丹波篠山市役所第 2 庁舎 3 階 301・302 会議室

4 会議に出席した者の氏名

(1) 委 員 （敬称略・順不同）

会長 土性里花 副会長 西潟弘 瀧山玲子 数元康治 山内幸宣
田端俊典 堀香織 酒井宏 大上久美子 本荘正子 泉より子
西田由美子

(2) 執行機関 事務局 市民生活部 部長 羽馬辰也

人権推進課

課長 麻田英史 課参事 高家徹 係長 奥山直美

5 傍聴人の数

1 人

6 議題及び会議の公開・非公開の別

全て公開

7 非公開の理由

該当なし

8 会議資料の名称

令和 2 年度第 2 回丹波篠山市あいさつ運動市民委員会次第 ほか

9 審議の概要

(1) 開会 10 時 00 分

(2) あいさつ

(会長)

みなさんおはようございます。本日は、令和 2 年度第 2 回目のあいさつ運動市民委員会に、それぞれお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。たかが「あいさつ」されど「あいさつ」。無理にさせるものではなく、心から出来るようにならないといけ

ないと思います。この後事務局から説明がありますが、本市のあいさつの現状を把握し、今後の事業のヒントになりますよう、みなさんどうぞよろしくお願ひいたします。

(3) 条例、要綱の説明

資料に基づき事務局が説明

(4) 「あいさつ運動」啓発事業について

(5) 令和2年度「あいさつ運動」啓発事業について

(6) 令和3年度「あいさつ運動」啓発事業について

(事務局)

資料に基づき一括説明

(会長)

それでは、事務局から説明がありました、2番から5番のあいさつ運動の事業について何かご意見やご質問のある方はいらっしゃいますか。ないようですので、あいさつ運動についてお一人ずつ一言いただけますでしょうか。

(委員)

〇〇まちづくり協議会でも、11月から12月にかけてあいさつ運動を1週間実施しました。参加者が多いことは大変素晴らしいことですが、多すぎると人が固まって中学生、高校生の通行の邪魔になってしまうような場面も見受けられました。どのような形で実施するのがベストなのか、今後も考えていきたいと思ひます。

(部長)

〇〇地区の場合、交差点1カ所に10人以上ぐらいいらっしゃって、たくさんの方に参加していただいているといつも感謝しております。他の地域では、2~3人程度役員の方が参加されているという印象です。小・中・高校生の通行の妨げにしなければ大丈夫だと考えます。

(委員)

強化週間の期間、市の職員の方の場所を変えていただくなど、考えていただくのも良いかもしれません。周辺の地域の方々も参加していただき、大変ありがたく思ひます。また、分散する方法などをまち協で提案したいと思ひます。

(委員)

□□まちづくり協議会では、見守りを兼ねたあいさつ運動を、通りに1~2人と分担を決めていて、小学生を見守るのにちょうど良い人数で取り組んでいます。また、月曜日は、子どもの保護者の方も交差点の所で立って参加されています。

(委員)

週に2回、孫を認定こども園に送って行きますが、若いお父さんもお母さんも「おはよ

うございます」と、黙っている人がいないくらい活発にあいさつ出来ていて、とても気持ちが良いです。「おはようございます」だけでなく、「いってらっしゃい」や「いってきます」と言い合っています。その親たちの様子を子どもたちがずっと見たり聞いたりしています。たとえ大きな声が出なくても、頭を下げるだけでも良いと思います。そういう「あいさつ」のシャワーを毎日浴びることによって、小さい子どもも時期が来れば自然とあいさつ出来るようになると、自分も学ばせていただいています。そうして、素晴らしいコミュニケーションが出来るようになっていくのだと感じます。

毎朝、見守りを兼ねたあいさつ運動をされている方にお聞きしたのですが、今年も、卒業を迎えた〇〇高校の女の子が、わざわざ自転車を降りて「3年間ありがとうございました。今日で卒業します。」と言ってくれたとのこと。委員の書かれた男子高校生の新聞記事を読んでくれていたのかもしれない。嬉しいことなので、報告させていただきます。

(会長)

その高校生のお礼のエピソードの記事については、〇〇高校の教頭先生とお話した時に、記事をみなさんに読んでいただいたとお聞きして嬉しく思っています。委員からは良いお話をお聞きしていますが、何か課題のようなことはありませんか。

(委員)

中学生の孫は、家の中では「うん」「はい」くらいしか言わないのですが、家ではあまりしゃべらない子も、近所の方に聞くと、外ではちゃんとあいさつしているそうです。教育委員会が平成28年に作成された子育て日めくり応援メッセージの中にも書かれているとおり、「あいさつはまず家庭から」というのが自分自身の課題だと思います。

(委員)

今年度は、デカンショ祭りや秋の祭礼などほとんどの行事が中止となったので、あいさつ活動が何もできず残念です。ただ、全国のボランティア協会の研修会で「あいさつがすごく大事だと分かってきました。小学校低学年の時は出来なくても、続けることによって、徐々にあいさつ出来るようになり、卒業する頃には「今までありがとうございました」と言ってもらえるようになりました。ボランティアをやっていく気持ちが高まりました。」という発表がありました。やはり継続することが大事だと思います。

(委員)

〇〇中学校PTAであいさつ運動を登校時に取り組んだ時、校長先生が生徒たちだけでなく、通っていく車の方達にも頭を下げておられて、とても良いことだと思いました。国道△△号線でお昼のお弁当を売っておられる方も、車に乗っている私に頭を下げてあいさつされておられて、とても感じが良く、気持ちが良いです。課題としては、小学生はちゃんとあいさつが出来ていますが、高校生は恥ずかしがってしないこともあります。続けて取り組んでいくことが大事だと感じています。

(委員)

老人クラブでは、地道なあいさつ運動に取り組んでいます。その中で聞かせてもらったお話があります。「4年ほど前から、家の前を歩いて通学している小学生の子どもがあいさつ出来ていませんでした。近所の方と2人で見守りを兼ねて校門まで一緒について行っていました、無言でした。自分自身のウォーキングにもなるので、それからずっと続けていくと、現在は子ども達から先にあいさつしてくれるようになりました。2学期の終業式の日、「2学期、毎日ありがとう。3学期もよろしくお願いします。行ってきます。」と言われて涙が出ました。地道にやってきたことは間違っていなかったと感じることが出来ました。今では生きがいとなっています。」ということ聞かせていただき、小さな活動ですが、少しずつでも広がっていけば良いと思いました。課題としては、若いお母さんで、あいさつが出来ていない人がいるという話を聞いたことがあります。もしかして、あいさつしておられても聞こえなかったのかもしれませんが。

(委員)

中学校では生徒会が中心となってあいさつ運動をしています。生徒会役員選挙の時の公約にも「あいさつ運動の継続」のことを上げる生徒もいます。今年度は3年生の様々な大会やコンクールなどが中止となり、密にならないようにと集会もできず、大きな声はだめだということで、どうしたものかと職員で話したこともあります。現在は、継続して生徒たちが中心となって職員と一緒にあいさつ運動の取り組みを進めているところです。

(委員)

小学生達が、それぞれの地域でお世話になっていること、改めてお礼を申し上げます。児童会でも、目や心であいさつをする、あいさつを大切にしていこうと取り組んでいます。なかなか低学年は自主的には難しい面もありますが、あいさつがあふれる学校にしていきたいと思っています。年度当初は小さかった声がだんだん聞こえるようになり、あいさつへの理解が進んできた実感しています。保護者の方から「家庭や地域の中でだんだんあいさつの声が大きくなっているのは、心の成長が見られたからだと思う。」というご意見をいただきました。その通りだと思います。教育としては、子ども達の理解につながるような手立てを講じていくことが大事で、コミュニケーションは人としての土台の部分になると考えますので、これからも取り組みを進めていきたいと思っています。保護者の方への啓発には「学校だより」などに子ども達の様子を掲載し、保護者の方も巻き込んであいさつ運動を進めていきたいと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。

(委員)

みなさん、すごく活発に活動されていて、私達の事務局でも何かしなければと思っています。地域に恩返しをするようなことが出来ればと思います。個人的な活動でも大丈夫だということをお聞きしましたので、私自身も関わらせてもらえたら嬉しく思います。

(会長)

一人一人の活動が大事であると思います。地域で頑張っていたいただいている方達に、本日

委員に配布されています、あいさつ運動の啓発クリアファイルをお渡しして感謝の意を一言添えてお伝えしていただけたらと思います。

(委員)

資料の13ページの「丹波篠山の教育」の施策の基本方向に掲載されているとおり、「あいさつの実践」の成果目標を「近所の人に会ったときは、自分からあいさつをするという児童生徒の割合が90%以上になること」として学校と共に取り組んでおります。毎年小学校3年生から中学校3年生まで学習生活習慣状況調査をしており、令和2年度にした調査によると、丹波篠山市では小学生では平均して82%が出来ている、中学生は86%が出来ているという結果でした。全国では80%を切っております。本市では自分からあいさつ出来ている子が非常に多いです。過去5年間の経緯としても変わらず進んできているのは、やはり地域や家庭、学校の取り組みが定着しているのだと捉えています。教育研究所としては、人間学的な視点と心理学的な視点から人間の成長を見ていこうということを中心に取り組んでいます。子ども達は生まれてから大きくなるにつれて自分の安心・安全なエリアがどこまでなのかということを感じていきます。ベースは家族ですが、ここまでは安心な人達、それを分かるにはあいさつを通して会話をしながらになります。もう少し大きくなると、近所の人達は安心な人達、あいさつを交わし合えるようになってくると安心なエリアが増えていきます。コミュニティを作っていくための一つの方法としての段階ですが、この人は危ないのではないかなとか知らない人だと子どもは多分あいさつをしないとします。この人は安心できる人、信頼できる人だと分かってくると、あいさつする範囲が増えていってコミュニティが広がっていく。こうやってあいさつが広がっていくと思います。基本は家庭からスタートということで、これからも進めていきたい、取り組んでいきたいと思っています。

(会長)

大変勉強になりました。コロナ禍でみんなが疲れている状態ですが、家庭からあいさつを広げていくことが大切ですね。それでは副会長、閉会のごあいさつをお願いします。

(副会長)

みなさん、貴重なご意見を聞かせていただきありがとうございました。平成26年にあいさつ運動市民委員会が設置された当初は、あいさつについてどんなことを話し合うのかと思っていましたが、心の中から自然と湧き出るものだと感じるようになりました。丹波篠山市が、ホッとできる、安心なまちであるためにも、まずは家庭から、地元からあいさつの輪がこれからもどんどん広がって欲しいと常々思っています。また今後ともどうぞよろしく願いいたします。本日はお疲れ様でした。

(7) 閉会 11時10分